

第2学年国語科学習指導案

1. 単元名 友だちに分かりやすく話そう「楽しいおもちゃ、つくったよ」

2. 指導観

○ こんな子どもだから

本学年の子どもたちは、1学期に「ともこさんはどこかな」の単元で、迷子のアナウンスを相手に分かりやすく伝えるために、大事なこと（迷子の特徴）を落とさないようにして話したり聞いたりすることについて学習をした。このため、子どもたちは話す喜びを感じ、みんなの前で話そうという意欲が高まってきている。また、聞き手の方も、友だちの話最後まで興味を持って聞こうという意識が育ってきている。しかし、話す内容がうまくまとまらずに、友だちとコミュニケーションをとることが難しい子どももいる。

○ このような学習で

本単元では、順序よく分かりやすく話すことを学習するために、まず、「ぶんぶんごま」の説明文の教材を扱うことにした。この教材は、「まず、次に…」などの接続詞が分かりやすく文章の中に書かれており、実際に「ぶんぶんごま」を作って遊ぶという体験を通して学習することができる。そのため、どの子でも興味を持って、作り方の説明に取り組むことができると考える。次に、図工で自分の好きなおもちゃを計画して作り、図工科と国語科とを合科的に学習することによって、自分のおもちゃの作り方や遊び方を説明したいという意欲を持つことができるようにする。説明するときには、「ぶんぶんごま」の学習を生かすことができる。これらの活動を通して、子どもは興味を持って、楽しみながら話したり聞いたりする活動に取り組むことができると考える。

本単元の小中連携教育の視点

この学習は、話す・聞く系統表の「聞き手の方を向いて話す」、「事柄の順序を考えて話す」、「具体物を使って話す」「はっきりした声で、声の大きさを考えて話す」「話し手の方を向いて最後まで聞く」「話し手にうなずいたり、返事をしたりしながら聞く」「分からないことは聞き直したり、質問したりする」をねらいとしており中学年の内容につながる上でも意義深いと考える。

○ このような支援で

指導にあたっては、まず、「ぶんぶんごま」の教材を用いて順序を表す言葉について学ばせる。次に、自分が作りたいおもちゃを「おもちゃづくりの本」から、自由に選ばせる。子どもたちが作りたいおもちゃと出会えるように様々な種類の本を準備しておく。それから順序を意識してまとめられるような計画カードを提示して、調べたことをカードにまとめさせる。おもちゃが出来上がったら発表原稿を作らせる。そして、具体物（おもちゃ）を使って話したり、相手の方を見て話したりするなど、分かりやすく話すための工夫をさせる。また、聞き手になった時は、最後まで話を聞いたり、質問を返したりしながら聞く練習をさせる。ここでは、話し手のモデルビデオを提示して、めあてをつかみやすくさせたり、振り返りカードを活用して自己評価や他者評価をさせて、お互いに高めあったりすることができるように支援する。また、子どもたちの活動の場を1対1、3～4人グループ、ワークショップ形式（1クラス）、学年と徐々に大きなものにしていくことで、話すことが苦手な子どもも自信をもって最後の発表会に臨めるように支援する。

3. 目標

- 相手に分かるように、おもちゃの作り方や遊び方を順序に気をつけながら話すことができる。
- 具体物を使ったり、友だちの方を見たりしながら相手に分かりやすい話し方の工夫をすることができる。
- 最後まで話を聞いて、質問をしたり感想を返したりすることができる。

4. 学習計画（14時間）

学習活動と内容	支援・指導の工夫と留意点（※他教科との関連）
1. 単元のめあてをつかみ、単元計画を立てる。 ① <input type="checkbox"/> おもちゃのモデルを提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> —めあて— じぶんのすきなおもちゃをつかって、つくりかたやあそびかたをみんなにつたえよう。 </div>	<input type="checkbox"/> 教師が作ったおもちゃを用意しておく。 <input type="checkbox"/> 作り方に興味を示すような発問を行う。
2. ぶんぶんごまの作り方を読み取る。 ② <input type="checkbox"/> 順序に気を付けて読む。 <input type="checkbox"/> 順序を示す接続詞の意味を知る。	<input type="checkbox"/> 接続詞に印を付けるよう指示する。 ※ ぶんぶんごまをつくる。(図工科)
3. 自分の好きなおもちゃを本で調べる。 ① <input type="checkbox"/> 本をつかって好きなおもちゃを探す。 <input type="checkbox"/> 自分が作りたいおもちゃを決める。	<input type="checkbox"/> おもちゃの作り方の本を集めておく。 <input type="checkbox"/> 個に応じて、作製期間や難易度、材料等について助言する。
4. 自分が作るおもちゃの計画カードを作る。 ① <input type="checkbox"/> 計画カードの書き方を知る。 <input type="checkbox"/> 計画カードに書く。	<input type="checkbox"/> 説明用黒板拡大カードを用意しておく。 <input type="checkbox"/> 書き方を机間指導する。
5. 発表原稿を作る。 ② <input type="checkbox"/> 計画カードを元に原稿を書く。 <input type="checkbox"/> 順序に気を付けて推敲，練習する。	※ 自分の好きなおもちゃを作る。(図工科) <input type="checkbox"/> 原稿を書くプリントを用意しておく <input type="checkbox"/> 接続詞に注意するよう助言する。
6. 具体物を取り入れた発表の練習をする。 ① <input type="checkbox"/> 話し方の工夫について話し合う。(2の〇本時) <input type="checkbox"/> 具体物を使って話す練習をする。 <input type="checkbox"/> 代表児が発表する。	<input type="checkbox"/> 1学期の「ともさんはどこかな」を想起できるよう足跡を掲示しておく。
7. 具体物を使う発表原稿の推敲をする。 ①	<input type="checkbox"/> 具体物を使いながら推敲していくよう助言する。
8. 振り返りを生かしながら発表練習をする。 ① <input type="checkbox"/> 3～4人のグループで練習と振り返りをする。 <input type="checkbox"/> 代表児による発表。(2の〇本時)	<input type="checkbox"/> 前時の振り返りの足跡を掲示しておく。 <input type="checkbox"/> 振り返りカードを用意しておく。
9. 友達の発表を聞いて、質問をする。 ① <input type="checkbox"/> 代表児の発表と質問を聞く。(2の〇本時) <input type="checkbox"/> グループで質問の練習をする。	<input type="checkbox"/> 聞き方の視点を明確にしておく。 <input type="checkbox"/> 振り返りカードを用意しておく。
10. 発表会のリハーサルをクラスで行う。 ① <input type="checkbox"/> 発表の手順について確認する。(2の〇本時) <input type="checkbox"/> 前半・後半に分かれて発表する。	<input type="checkbox"/> 発表の場の設定をする。(図工室) <input type="checkbox"/> めあてを達成している発表や質問をみんなに紹介する。
11. 学年全体で発表会をする。 ② <input type="checkbox"/> 発表の手順について確認する。 <input type="checkbox"/> 前半・後半に分かれて発表し、質問をする。	<input type="checkbox"/> 発表の場を設定する。(体育館) <input type="checkbox"/> 最後に振り返りができるよう、振り返りカードを用意しておく。

本時学習指導案（14／20）

公開授業Ⅱ

1. 本時の目標

- おもちゃを使って相手に分かりやすい話し方の工夫をしようすることができる。
- 相手の顔を見ながら話そうとすることができる。

2. 本時の支援、指導にあたって

本時の仮説

相手に分かりやすい話し方の工夫を示したよいモデルとよくないモデルを提示して話す練習をすれば、分かりやすい話し方の工夫をしようすることができるであろう。

本学級の子どもたちは、前時までに、自分で作ったおもちゃの作り方や遊び方を友だちに紹介するための発表原稿を書いており、頑張って作ったおもちゃのよさを友だちに知ってもらいたいという意欲をもっている。

そこで本時指導にあたっては、まずめあてを確認する場面で、前単元（ともこさんはどこかな）の学習を振り返らせる。そこで聞き手に分かりやすく話すことが大切であったことを想起させる。次に、よいモデル、よくないモデルビデオを視聴させて本時の話し方の工夫（おもちゃを使う、友だちの顔を見ながら話す。）を共通理解させる。さらに、おもちゃを（具体物）使った話し方にはどんなものがあるか（①言葉で伝えにくいところを指差しながら話す。②遊び方【動かし方】をやってみせる。）を発表させて、話し方の工夫に気づかせたい。理解が難しい子のために、DVDを使い大切な箇所を繰り返し視聴させたい。そして、自分の発表原稿と実物のおもちゃをもとにして話す練習をする。机間指導では、一人一人おもちゃの使い方を助言していく。

各自の工夫を練習後、2人グループを作らせて発表の練習をさせる。聞き手は、最後まで静かに聞くことに気をつけ、話し手の発表におもちゃを使った話し方の工夫がしっかりとできていたかをチェックしてアドバイスをさせる。最後に、代表児による発表をさせて、話し方の共通理解を図る。その際、教師が代表児の発表原稿を拡大したものに具体物を見せるタイミングなどを書き入れ、追加、修正の仕方を理解しやすくする。そしてアドバイスや自分の工夫を忘れないように、発表原稿の見直しをさせる。次時は原稿の修正と発表練習をしていくことを伝える。

本時の小中連携教育の視点

本時は、話す・聞く系統表の「具体物を使って話す」力を身につけることを主なねらいとしており、これは中学年の話す力に発展していくための基礎となるものである。

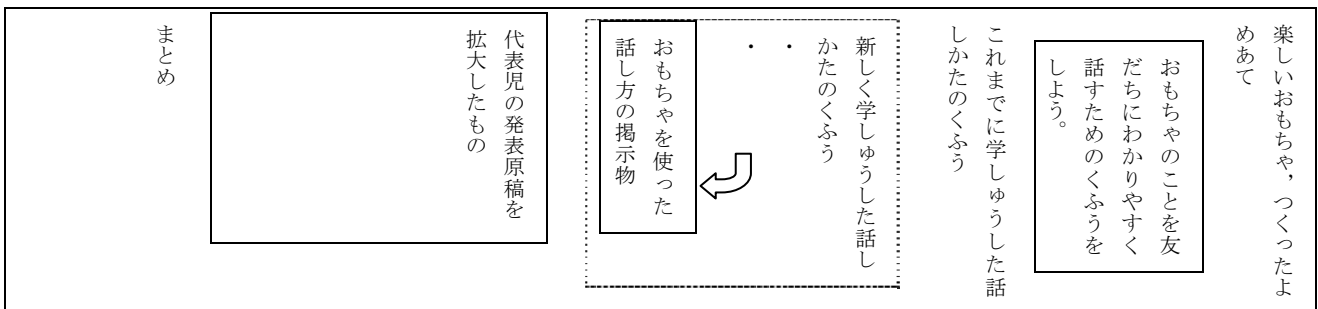
3. 準備

- （教師）モデルビデオ（DVD）、DVDプレイヤー、テレビ、話し方の工夫の掲示物
おもちゃを使った話し方の掲示物、振り返りカード
- （児童）おもちゃ、発表原稿

4. 本時の展開

学習活動と内容	支援・指導の工夫と留意点
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <div data-bbox="175 275 683 371" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>おもちゃのことを友だちにわかりやすく話すためのくふうをしよう。</p> </div> <p>2. モデルビデオを見て、話し方の工夫を話し合う。</p> <p>○モデルビデオ①（よくない例）を見て話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさ，速さはいいけど分かりにくい。 ・おもちゃのどこの部分の説明なのか分からない。 <p>○モデルビデオ②（よい例）を見て話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃを使って説明している。 ・相手の方をしっかりと見ている。 <p>○おもちゃの使い方を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃを使った話し方 <div data-bbox="175 1003 810 1077" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉で伝えにくいところを指差しながら話す。 ・遊び方（動かし方）をやってみせる。 </div> <p>3. 発表原稿をもとにしておもちゃを使った話し方を練習する。</p> <p>○個人練習をする。</p> <p>○2人グループで発表し合う。</p> <p>4. 代表児の発表を聞いて、自分の発表原稿を、アドバイスを取り入れながら見直す。</p> <p>6. 本時のまとめ、次時の予告を聞く。</p>	<p>○ 既習の学習「ともさんはどこかな」を想起させて、めあてをつかませる。</p> <p>○ 分かりにくかったところを何度も見ることができるよう、モデルはDVDに録画しておく。</p> <p>○ どこが、なぜ分かりにくかったか、意見を発表させて、よい例のモデルを見せる。</p> <p>○ 既習の話し方の工夫と新しい話し方の工夫を明確にして板書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の話し方の工夫（モデル①） <div data-bbox="855 692 1410 772" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさ（ハキハキ） ・話すはやさ（ゆっくり，間をあけて） </div> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい話し方の工夫（モデル②） <div data-bbox="855 810 1410 891" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃをつかって話す。 ・友だちの顔を見ながら話す。 </div> <p>○ モデル②をもう一度見せることで、おもちゃの効果的な使い方に気づかせる。</p> <p>○ 一人一人机間指導をしながらおもちゃの使い方を助言する。</p> <p>○ 聞き手に「おもちゃを使った話し方」が出来ていたかをアドバイスするように伝える。</p> <p>○ 代表児の発表原稿を拡大したものを使って、修正，追加の書き方を教える。</p> <p>○ 代表児の発表のよかったところに気づかせ、話し方の工夫を確認させる。</p> <p>○ 次時は、書き直しをして練習を続けていくことを伝える。</p>

5. 板書計画



本時学習指導案（16／20）

公開授業Ⅱ

1. 本時の目標

- 相手を見ながら、わかりやすいようにおもちゃを見せて発表することができる。
- おもちゃ作りについての友だちの発表を話し方の工夫に気をつけながら、聞くことができる。

2. 本時の指導にあたって

本時の仮説

3～4人のグループで、話し方の工夫を振り返りながら、おもちゃを使って話す練習をすれば、相手にわかるようにおもちゃを見せて発表できるであろう。

前時に、相手によく分かるようにおもちゃをどの場面で使うかを考え、最初の原稿を推敲している。

そこで本時は、聞き手の顔を見ながら、具体物を使って、相手によく分かるように話すことを学習する。

本時指導にあたっては、まず、めあてを確認し、これまでに学習してきた話し方・聞き方についても確認する。次に、3～4人のグループに分かれて、発表の練習をする。その際、聞き手は、発表を聞き終わったら、話し手が自分の発表を振り返ることができるよう、振り返りカードを書き、相手に渡す。そのとき、友だちのよさをみつけ、改善点もアドバイスし、お互いに高め合うことができるようにする。早く終わったグループからアドバイスをもとに練習をさせる。グループの発表が終わったことを確かめてから、本時のめあてが達成したことを確認するために、全体で代表児の発表を聞き、よかったことを発表し合い、自分のめあてをもって個人練習をする。最後に、学習のまとめをし、次時は、話の聞き方を学習することを知らせる。

本時の小中連携教育の視点

本時は、話す・聞く系統表の「聞き手の方を向いて話す」力を身に付けることを主なねらいとしており、これは、中学年の話す力に発展していくための基礎となるものである。

3. 準備

（教師）前時までの発表の仕方、聞き方のめあて、聞き方の振り返りカード、振り返りカードを拡大したもの

（子ども）おもちゃ、発表原稿

4. 本時の展開

学習活動と内容	支援・指導の工夫と留意点								
<p>1. 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて</p> <p>おもちゃをつかって、友だちの顔を見ながらはっぴょうしよう。</p> </div> <p>2. グループに分かれて、発表の練習をし、振り返りをする。</p> <p>○話しかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はっきりとわかるように発表する。 ①声の大きさやはやさに気をつけて、話す。 ②おもちゃをさしたり、うごかしたりして話す。 ③友だちの顔を見ながら話す。 <p>○聞きかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き終わったら、振り返りカードを書き、感想(アドバイス)を言う。 <p>3. クラス全体で友だちの発表を聞く。</p> <p>○ 友だちの発表を聞いて、よかったことを発表する。</p> <p>4. 自分のめあてをもって個人で練習する。</p> <p>5. 本時のまとめをし、次時の予告を聞く。</p>	<p>○ 話し方、聞き方のめあてを掲示しておく。</p> <p>○ 「相手を見て、具体物を使って」に、視点をあてる。</p> <p>○ 聞き手は話し方の工夫に気をつけて聞くように助言する。</p> <p>○ 3～4人のグループをつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%; padding: 5px;">三、友だちの顔を見ながら話すことができた。</td> <td style="width: 25%; padding: 5px;">二、おもちゃをさしたり、うごかしたりして話すことができた。</td> <td style="width: 25%; padding: 5px;">一、声の大きさやはやさに気をつけて、話すことができた。</td> <td style="width: 25%; padding: 5px;">()さんへ ()より</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td style="padding: 5px;">ふりかえりカード ◎・○・△をつけよう</td> </tr> </table> </div> <p>○ 早く終わったグループから、アドバイスをもとに練習をさせる。</p> <p>○ 話し方の工夫に気をつけながら聞くようにさせる。</p> <p>○ 友だちの発表を聞いて考えた自分のめあてをもとに工夫するよう助言する。</p> <p>○ 聞き方や質問の仕方を学習することを知らせる。</p>	三、友だちの顔を見ながら話すことができた。	二、おもちゃをさしたり、うごかしたりして話すことができた。	一、声の大きさやはやさに気をつけて、話すことができた。	()さんへ ()より				ふりかえりカード ◎・○・△をつけよう
三、友だちの顔を見ながら話すことができた。	二、おもちゃをさしたり、うごかしたりして話すことができた。	一、声の大きさやはやさに気をつけて、話すことができた。	()さんへ ()より						
			ふりかえりカード ◎・○・△をつけよう						

5. 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>めあて</p> <p>おもちゃをつかって、友だちの顔を見ながらはっぴょうしよう、友だちにわかりやすく話すことができる。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>振り返りカードを拡大したもの</p> </div>	<p>ふりかえりカードの書きかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よかったことや、もっとくふうしたほうが良いところをアドバイスする。 	<p>楽しいおもちゃ、つくったよ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて</p> <p>おもちゃをつかって、友だちの顔を見ながらはっぴょうしよう</p> </div>
<p>話しかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさやはやさに気をつけて ・おもちゃをさしたり、うごかしたり ・友だちの顔を見ながら 	<p>聞きかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さいごまで話を聞く。 ・聞いたあとに、ふりかえりカードを書く。 		

本時学習指導案（17／20）

公開授業 I

1. 本時の目標

- うなずいたり、返事をしたりしながら、話を聞くことができる。
- 話を聞いて、分からないところは聞き直したり質問したりできる。

2. 本時の指導にあたって

本時の仮説

聞き方、質問の仕方を学ぶため、代表児グループによる共通理解の場の設定やグループでの習熟の場の設定を行えば、分からないところは聞き直したり、質問したりできるようになるであろう。

前時までには、順序よく話すこと、分かりやすく話すことを学習している。そこで、本時は、話の聞き方と質問の仕方を学習する場面である。

本時指導にあたっては、本時学習のめあてと1学期から前時まで学習してきた聞き方について確認する。次に、発表を聞いた後の質問の仕方を話し合う。この後、代表児による発表を聞き、聞き方の共通理解を図る。この共通理解を図るために、発表者（1名）、質問代表児（3名）、発表者と質問代表児以外（24名）に子どもたちを分ける。そして、発表者に発表させる。この時、発表を聞きながら書くことは難しいので、発表者以外の子どもたちには、発表を聞いた後、質問をプリントに書くように指示する。その後、発表者に対して、質問代表児が質問をし、発表者がそれに答える。このような発表者と質問代表児の応答をもとに、どんな事を質問したらよいか共通理解させる。

質問の仕方が分かったところで、4人一組の少人数のグループで発表と質問をすることができるようにする。順番に発表をしていき、全員が質問できるよう机間指導していく。

グループ全員の質問が終わったら、質問の仕方や内容について振り返りカードに書き、自分のよさや友だちのよさを見つけることができるようにする。さらに感想を言ったり、アドバイスしたりしながら、お互いを認め、高め合っていくことができるようにする。

最後に、次時は今までの話し方と今日の聞き方の学習を生かして、発表会のリハーサルを行うことを知らせる。

本時の小中連携教育の視点

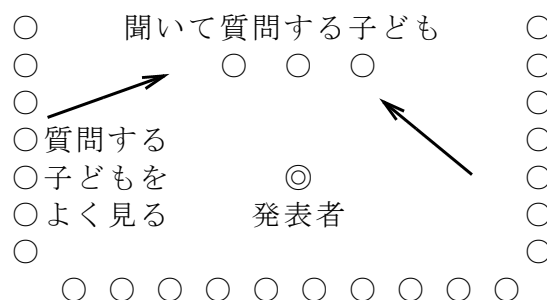
本時は、話す・聞く系統表の「分からないところは聞き直したり、質問したりする」力を身に付けることを主なねらいとしており、これは、中学年の話し合う力に発展していくための基礎となるものである。

3. 準備

(教師) 学習プリント、振り返りカード、振り返りカードを拡大したもの

(子ども) 発表原稿、おもちゃ

代表児グループの質問を聞いて、
共通理解する場の設定



4. 本時の展開

学習活動と内容	支援・指導の工夫と留意点
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <div data-bbox="172 342 821 459" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて わからないことをしつもんでできるようになろう。</p> </div> <p>2. 発表の聞き方について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 話す人の方を向いて最後まで静かに聞く。 ○ うなずきながら聞く。 ○ 返事をしながら聞く。 <p>3. 質問の仕方を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の予告を確認する。 ○ 1学期の「ともこさんはどこかな」で学んだ聞き方を掲示しておく。 ○ 低学年の聞き方を教室掲示しておく。
<div data-bbox="199 801 1396 952" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・聞こえにくかったところを聞き直す。「～のところをもう一度お願いします。」 ・難しい言葉の意味を尋ねる。「～というのは、どういう意味ですか。」 ・分かりにくいところを質問する。「～のところをくわしく説明して下さい。」 ・理由を尋ねる。「～するのは、どうしてですか。」 </div>	
<p>4. 代表児による発表と質問を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 代表児が発表する。 ○ 全員で質問を書く。 ○ 代表児が質問する。 ○ 周りで聞いていた子も質問し、感想を言ったり、アドバイスをしたりする。 <p>5. グループで順番に練習する。(4人組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一人が発表し、後の3人が聞いて質問する。 ○ 振り返りカードを書く。 ○ 振り返りを伝え合う。 <p>6. 本時のまとめをし、次時の予告を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 周りの子ども達が代表児達を取り囲むような形態にする。 ○ 質問が書けたことを賞賛する。 ○ 質問の仕方や内容について賞賛する。 ○ 相手を認めるような感想を言うように助言する。 ○ 発表を聞いた後に振り返りカードを書くよう指示する。 ○ 次時は発表会のリハーサルをすることを伝える。

5. 板書計画

<div data-bbox="247 1668 375 1982" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>いろいろなしつものしかたがわかって、できるようになった。</p> </div>	<p>まとめ</p>	<div data-bbox="438 1668 534 1982" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>振り返りカードを拡大したものの</p> </div>	<p>ふりかえりカードの書きかた</p>	<p>○○さんのこうしたらよいところ</p>	<p>○○くんのよさ</p>	<p>しつものないよう</p>	<div data-bbox="798 1668 1021 2004" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「～のところをもう一度お願いします。」 「～というのは、どういう意味ですか。」 「～のところをくわしく説明して下さい。」 「～するのは、どうしてですか。」</p> </div>	<p>しつものしかた</p>	<div data-bbox="1252 1668 1412 1982" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>楽しいおもちゃ、つくったよめあて わからないところをしつもんでできるようになろう。</p> </div>	<p>聞きかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話す人のほうをむいてさいごまでしずかに聞く。 ・うなずきながら聞く。 ・へんじをしながら聞く。
---	------------	--	----------------------	------------------------	----------------	-----------------	---	----------------	--	--

本時学習指導案(18/20)

公開授業 I

1. 本時の目標

- 前時までに学習した話し方の工夫に気をつけながら、相手に分かるように話すことができる。
- 話している人の方を見ながらしっかり聞き、分からないところを聞き直したり質問したりすることができる。

2. 本時の指導にあたって

本時の仮説

ワークショップという「習熟の場」を設定すれば、子どもたちは今までの話したり聞いたりする学習を生かして活発に交流することができるであろう。

前時までに、子ども達は発表原稿を書き、次のように相手に分かるような話し方の工夫をし、練習をしてきた。

- ① 声の大きさや速さに気をつけて話す。
- ② おもちゃをさしたり、動かしたりして話す。
- ③ 友だちの顔を見ながら話す。

また、聞き方として最後までしっかり聞き、分からないところを質問したり感想を言ったりする練習をしてきた。

本時では、今まで学習してきたことをもとにワークショップ形式で発表をし、質問や感想を返してもらうという、「おもちゃ発表会」のリハーサルを行う。実際に発表の場が作られ、今まで練習のときに聞いてくれていたグループの友だちとは別の人に話すことで、次時の発表会の雰囲気をつかませる。また、聞き手は初めての発表に対してしっかり聞き質問や感想を返すことができるか確かめさせる。この時に、前時で出された様々な質問の仕方や感想がヒントになると考えられる。ここでは活動の場を見て回り、発表や質問がうまくいくように支援する。今回は、はじめてワークショップ形式を用いるので、二人の発表を聞き終わったら次の場所に移動するという形式を理解させるため、時間を区切って行う。聞き手は発表者の発表を「ふりかえりカード」で評価し、本番前の最終チェックとする。

最後にワークショップを終えた後の振り返りを行い、発表の仕方や質問・感想などでよかったものを挙げ、発表会へ向けての意欲を高める。

本時の小中連携教育の視点

本時は、話す・聞く系統表の「はっきりとした声で、声の大きさを考えて話す」「具体物をつかって話す」「分からないことは聞き直す」を身に付けることを主なねらいとしており、これは中学年の話す・聞く力に発展していくための基礎となるものである。

3. 準備

- (教師) 前時までの発表の仕方、聞き方のめあて、その他掲示物、 振り返りカード、
振り返りカードを拡大したもの
- (子ども) 発表原稿 おもちゃ

4. 本時の展開

学習活動と内容	支援・指導の工夫と留意点
<p>1. 前時までの学習を想起し、本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>話し方、聞き方のめあてをもとに「おもちゃはっ表会」のれんしゅうをしよう。</p> </div> <p>○ 話し方・聞き方のめあてについて確認する。</p> <p>2. 発表会の手順を知らせる。 (発表者) 二人組で、交互に発表する。 (聞き手) 二人の発表を聞いた後、次のグループに移動して発表を聞く。</p> <p>○ 聞き手の子どもたちは、聞き終わった後「ふりかえりカード」を書き、発表者に渡す。</p> <p>3. 発表会のリハーサルを行う。</p> <p>○ 前半の子どもたちが発表し、後半の子どもたちが質問・感想を言う。 ○ 後半の子どもたちが発表し、前半の子どもたちが質問・感想を言う。</p> <p>4. 振り返りをおこなう。 ・自分や友だちのよさを発表する。 (自己評価, 他者評価)</p> <p>5. 本時のまとめをし、次時の確認をする。</p>	<p>○ 教室内に前時までの学習の流れを掲示しておき、子ども達が想起しやすいようにしておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[話す時]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの顔を見ながら話す。 ・声の大きさ・はやすさに気をつけて話す。 ・おもちゃをさしたり、うごかしたりして話す。 <p>[聞く時]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さいごまでしずかに聞く。 ・しつもんをしたり、かんそうを言う。 </div> <p>○ 一つのグループに実際にやってもらい、子どもたちにワークショップのイメージを持たせる。</p> <p>○ 「ふりかえりカード」の拡大したものを黒板に貼り、評価の確認をする。</p> <p>○ 時間を区切り、振り返りカードを書かせ、次の人と交代する</p> <p>○ うまく発表できたところ、質問できたことを挙げさせ、全体の場で確認したり、賞賛したりする。</p> <p>○ 次時は学年で「おもちゃ発表会」を行うことを知らせる。</p>

5. 板書計画

<p style="text-align: center;">まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">振り返りカード</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ わからないところを聞きなおす。 ・ くわしく言ってもらおう。 ・ りゆうを聞く。 <p style="text-align: center;">しつもん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ うなずきながら聞く。 ・ しつもんやかんそうを言う。 <p style="text-align: center;">[聞きかた]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さいごまでしずかに聞く。 ・ うなずきながら聞く。 <p>・ おもちゃをさしたり、うごかしたりしながら話す。</p> <p>・ 友だちの顔を見ながら話す。</p> <p>・ 声の大きさやはやすさに気をつけて話す。</p>	<p style="text-align: center;">めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p>楽しいおもちゃ、つくったよ 話し方、聞き方のめあてをもとに「おもちゃはっびよう会」のれんしゅうをしよう。</p> </div>
---	--	--

本時では、今まで学習してきたことをもとに実際にワークショップ形式で発表をして質問や感想を返してもらうという、「おもちゃ発表会」の前時をおこなう。実際に発表の場が作られ、今まで練習のときに聞いてくれていたグループの友達とは別の人に向かい話すことで次時の発表会の雰囲気をつかむとともに、聞き手は初めての発表に対してしっかり聞き質問や感想を返すことができるか確かめる。発表の後に「ふりかえりカード」を使って実際の場でできたか確かめる。

最後に次時の予告を行い、発表会への意欲を高める。

本時の小中連携教育の視点

本時の学習の狙いである相手に伝わるように話す、わからないところは聞き直したり質問するということは、中・高学年の話合いの「自己と他者の相互理解」であるお互いの考えを尊重しながら話し合うことにつながると思う。

ワークショップの場の設定

